

ファイヤープログラム

(キャンプファイヤー・キャンドルファイヤー)

1 意義と役割

- ・ 真っ暗な闇と炎の対照。炎を囲んでの友との語らい、力いっぱい歌い踊る躍動感、そしてしばし沈黙して自己を振り返る。ファイヤープログラムは、感性豊かな子どもたちの心を開き、共に感動を味わう絶好の活動である。
- ・ 屋外で、大きな火を囲んでダイナミックな活動が期待できるキャンプファイヤー。屋内で、静かに心に染み入る幻想的なキャンドルファイヤー。それぞれ一長一短があるため、活動の目的や、活動参加者の実態に応じて組み入れると良い。

2 プログラムの流れ

本来、定型といわれるものはないが、意義をふまえ単なるお祭り騒ぎにならないように以下のような三部構成で行うのが一般的である。

- 第1部「点火のセレモニー」(厳粛な雰囲気の中で)
- 第2部「交流のつどい」(歌唱、スタンツ、ダンスなどのレクリエーション)
- 第3部「消火(分火)のセレモニー」(再び厳粛な雰囲気で)

3 運営のポイント

- ・ 静→動→静という雰囲気のメリハリを意識する。
- ・ 日常生活とは異なる雰囲気を醸し出す。
- ・ それぞれの団体の性質を考えて独自のプログラムを考える。
(各団体の団体指導者、活動参加者による企画・運営)

4 事前の準備

- ・ プログラムの検討、役割分担
- ・ シナリオ作成(歌やスタンツの練習、準備)
- ・ 資材の準備(貸出し)、場所の選定
- ・ 安全確保の確認

5 活動終了後の流れ

- ・ 参加者の誘導
- ・ 消火と片付け
- ・ 用具の返却

キャンプファイヤー

【活動可能人数：制限なし】

【活動時間（めやす）：1～2時間】

1 実施時期

4月から10月まで（実施不可：11月から3月まで）

2 準備物

○ 本所が用意できる物

表1

◇ 無料で貸出し可

- ①衣装（火の神、火の巫女） ②神の杖 ③ライター ④新聞紙（着火用）
⑤バケツ（消火用） ⑥スコップ ⑦火ばさみ

- ・ ①～④は事務室で受け取る。⑤⑥⑦は、薪等と一緒にリアカーに積んである。
- ・ 活動場所の浜には電源がないため、アンプ等を利用する場合は電池等の電源の用意が必要となる。電源延長コードは危険なため使用できない。
- ・ アンプ（CDデッキ）は貸出可能だが、団体に乾電池（単1：8個）を用意する必要がある。

◇ 有料で提供できる物

- ⑧薪（1本 220円） ⑨焚きつけ少々（薪とセットで提供） ⑩灯油（130円／1L）

- ・ ⑧⑨はリアカーに積んである。⑩は事務室で受け取る。
- ・ 推奨の薪本数は12本、灯油は1Lです。

※ 薪の本数は団体規模に合わせて注文してください。

○ 本所で用意できない物

点火、分火用のトーチ、投光器、懐中電灯

3 事前準備

(1) 実施判断

- ・ 雨天時、強風時（平均風速6m/s以上）は活動できない。最終的な実施判断は、活動直前（午後6時）に事務室前で行う。あらかじめ準備をしても、中止判断となる場合がある。

(2) 場所の選定

- ・ 活動場所は、青少年の家前の石津浜。特に指定の場所はないため、各団体に決める。火の粉が飛ぶ場合があるため、風があるときには風下に人が立つことがないようにする。また、砂地の方が後片付け等をしやすい。

(3) 資材の運搬と薪の準備

- ・ リアカーに積んだ状態で資材を提供する。自転車置き場から各団体に運び、準備を行う。明るいうちに準備をする方が安全である。

4 後片付けについて

- ・ 表1 ①～③及び⑩の物品は、事務室に返却する。
- ・ 表1 ⑤⑥⑦の物品及びリアカーは、自転車置き場の所定の場所に返却する。
- ・ 薪は完全に燃やしきり、灰だけにして、水をかけて完全に消火する。その後、穴を掘り灰を埋める。
- ・ 後片付け終了後は、必ず所員に知らせる。

※ 薪が完全に燃え尽きるまでは、相当の時間（2～3時間程度）を要しますが、最後まで責任をもって現場での監視をお願いします。

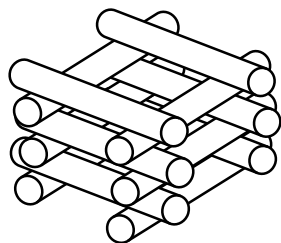
5 翌朝の現場確認について

翌朝にも、必ず現場を確認する。忘れ物、後始末の様子を再度確認する。

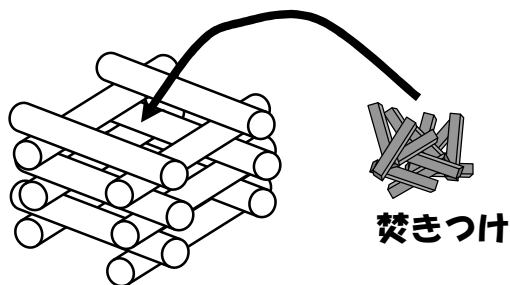
6 その他

- ・ 海岸は漁港管理事務所から使用許可をとり、使用している。「来たときよりも美しく」を合い言葉に、気持ちのよい活動を心がける。
- ・ 活動後は大変暗くなるため、落とし物や忘れ物、怪我のないよう注意する。

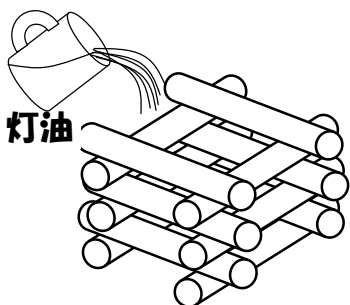
キャンプファイヤーの手順と注意



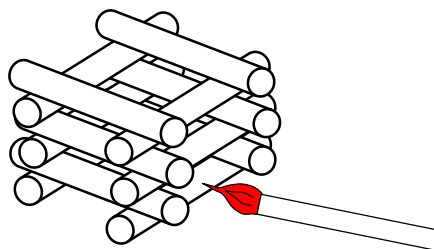
① 12本の薪を井形に組みます。



② こっばを下の方に置きます。



③ 灯油をまんべんなく、かけます。



④ 下から火をつけます。

◇ ファイヤーキーパー（火の係）を必ず決めましょう。

火を着けると、灯油の勢いでバーっと燃えますが、放置すると表面だけ燃えて終わってしまいます。そうならないために、火が持続するようにこっばや枯れ枝、松ぼっくり等を中央に入れて火を持続できるようにしてください。

◇ 風向きを考えて、配置を決めましょう。

火の粉が飛びますので、風下に参加者がいないように気をつけてください。

◇ 薪は最後まで燃やしきってください。※ 使用した薪は返却できません。

キャンプファイヤーが終了しても薪が燃え尽きるまで必ず団体指導者1人以上は浜に残り、消火を見届けてください。

◇ 灰はスコップで穴を掘って埋めてください。

状況にもよりますが、約2時間ほどで燃え尽きます。

◇ 最後に水をたっぷりかけてください。

海岸は、許可を得て使用しています。

“来たときよりも美しく” という気持ちを忘れないでください。

キャンドルファイヤー

【活動可能人数：制限なし】
【活動時間（めやす）：1～2時間】

1 実施時期

通年可能

2 準備物

○ 本所が用意できる物

表1

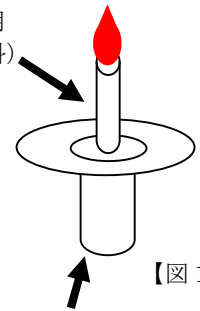
◇ 無料で貸出し可

- ①衣装（火の神、火の巫女） ②神の杖 ③ライター ④アンプ（CDデッキ）
⑤メインキャンドル台【写真1】 ⑥シート
⑦燭台（大10本、小6本）【写真1】
⑧火の神用・個人用キャンドル台【図1】

◇ 有料で提供できる物

- ⑨メインキャンドル（有料貸出し） 70円/本
⑩個人用キャンドル（販売） 10円/本
※⑨⑩は団体で持参可

火の神用・個人用
キャンドル（有料）

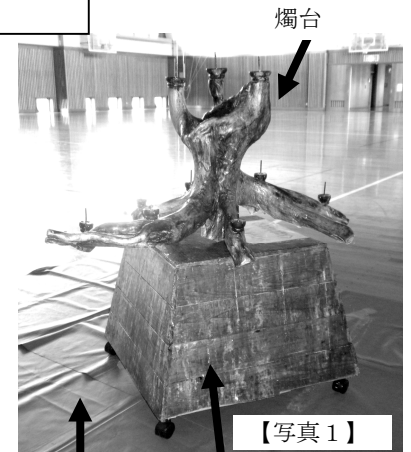


【図1】

火の神用・個人用
キャンドル台

3 事前準備

- 活動場所
大体育室またはオリエンテーション室で行う。
（活動場所は部屋割で決定する。）
- 物品の貸出し
 - 事務室で①～④及び⑨⑩を受け取る。
 - 大体育室（山側・南側の器具室）にある物品⑤～⑧は団体で準備を行う。
- 燭台・メインキャンドル台の設置
ロウが落ちるおそれのある部分（特にメインキャンドル周辺）には必ずシートを敷く。【写真1】



シート メインキャンドル台

4 後片付けについて

- 使用した物品は、元の場所（事務室または大体育室）に戻す。
- メインキャンドルは貸出し物品のため、事務室に返却する。
- 個人用キャンドルは、持ち帰る。
- 床に落ちたロウは、大体育室にあるへらで取り、たらいに捨てる。**使用した場所の清掃を必ず行う。**
- 燭台に着いたロウもへらできれいにとる。

5 翌朝の現場確認について

翌朝にも、必ず現場を確認する。忘れ物、後始末の様子を再度確認する。

6 その他

- 大体育室の照明（水銀灯）は、消灯後の再点灯には10分程度の時間を要する。点灯、消灯、再点灯のタイミングには注意が必要である。
- 「来たときよりも美しく」を合い言葉に、気持ちのよい活動を心がける。

展開例 (キャンプファイヤー・キャンドルファイヤー)

展 開	進 行	留 意 点
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・係ミーティング ・準備 ・リハーサル 	
第一部 点火のセレモニー (10～20分)		
参加者入場 開会の言葉 歌唱 火の神入場 火の神の言葉 誓いの言葉 点火 (分火) 歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・左 (反時計) 回りに大きな円となるよう入場 ・司会による ・「遠き山に日は落ちて」1 番歌、2 番ハミング ・歌に合わせて火の巫女先導で火の神入場 <p>(火の神の言葉の例参照) (誓いの言葉の例参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火の守は片膝をついて、火の神より火をもらう。 ・司会の合図で火の守は井桁 (メインキャンドル) に点火する。 ・キャンドルファイヤーでは、ここで分火を行ってもよい。火の守が、グループメンバーに火を渡し、次々に個人キャンドルに分火していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・「燃えろよ、燃えろ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・私語を慎む。 ・輪の中を反時計回りに一周する。 ・キャンプファイヤーでは、井桁の下部に点火する。 ・キャンプファイヤーは分火を行わない。 ・火を見つめながら歌う。
第二部 交流のつどい (40～60分)		
スタッツ ゲーム ダンスなど	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループのスタッツ (寸劇、歌など) ・ゲーム ・フォークダンス 	
第三部 消火のセレモニー (10分)		
歌唱 火の神の言葉 (分火) 詩の朗読 歌唱 火の神退場 閉会の言葉 退場	<ul style="list-style-type: none"> ・「一日の終わり」など ・キャンドルファイヤーではここで分火を行ってもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・担当が詩を朗読 「今日の日はさようなら」2 番からハミング ・火の巫女は、歌の途中から残り火をトーチに移し、火の神に渡す。 ・キャンドルファイヤーでは個人キャンドル消火 (グループごと順次消す、火の神の退場にあわせて通過したら消していく、誕生日ごとに消す、一斉に消すなど) ・消火後に火の神退場でもよい。 ・火の巫女を先頭に、神、守は円の中を一周して退場 <ul style="list-style-type: none"> ・司会による ・全員無言で退場 	<ul style="list-style-type: none"> ・心を静める。 ・キャンプファイヤーでは分火は行わない。 ・雰囲気合う詩を選んでおく。 ・キャンプファイヤーでは消火は行わない。

- ・ 展開例は一例です。集団の年齢や構成、実態に応じて、様々な方法が考えられます。点火、分火、消火の方法についても、感動的な演出を考え、行ってみてください。
- ・ キャンプファイヤー、キャンドルファイヤーの基本的な流れには差がありませんが、キャンプファイヤーの終了時点では消火できません。キャンプファイヤーの終了後も火が着いていることを考えて計画してください。

火の神の言葉（例）

私は、この焼津の町の北「高草の山」に住む火の神である。今宵は皆のため、火を授けに降りてきた。

考えてほしい。人々は火を自由に扱えることによって、このように発展をとげてきたのだ。遙か昔、人々が火を手に入れるのにどんなに苦勞をしてきたか考えたことがあるだろうか。火の存在は、決して当たり前のことではないのだ。

私が授けるこの火によって『感謝の心』を思い起こしてほしい。その心が皆の豊かな心を育む。そして、その先にはすばらしい未来が待ち受けているだろう。

今宵が皆と、この地球のすばらしい未来のための第一歩であることを願っている。

※ 火が人間に与えてくれた恩恵を伝える。また、その火を手に入れるために人間のたゆまざる努力と勇気と、多くの人の協力があつたこと、その結果、人間が文明を手に入れたことを伝えたい。キャンプファイヤーでは、大きな火の持つ圧倒的な力、誤った使い方をすれば、脅威となる火の怖さも伝えたい。

誓い（分火）の言葉（例）

火の神「あなたたちに、私から火を分け与える。この火を消すことなく、大切に守り続けてほしい。」

火の神「あなたには『健康の火』を授ける。」

火の守①「私は『健康の火』をいただきました。私たちは体を大切にし、明るく生活することを誓います。」

火の神「あなたには『感謝の火』を授ける。」

火の守②「私は『感謝の火』をいただきました。私たちは常に感謝することを忘れずに生活することを誓います。」

火の神「あなたには『自立の火』を授ける。」

火の守③「私は『自立の火』をいただきました。私たちは自立の心を養い、前向きに努力することを誓います。」

全員で「わたしたちは、いただいた火をいつまでも、心の中に燃やし続けます。」